

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和4年9月20日 第165号

サザコーヒーに行ってきました

メディアでちょいちょい見かける、「茨城県を代表する」と称されるサザコーヒーに行ってきました。つくば市にも何店舗かあるのですが、何やら本店は庭が綺麗だそうで、少し足を延ばしてひたちなか市まで行ってきました。

我が家では日常的に紅茶を飲んでおりまして、コーヒーの味はよく分かりません。まあ正直に言うと、紅茶にしたところで安いティーバッグもちょっとお高めのリーフティーも大した差は分かり



ませんが……。こちらの会社では、コロンビアの自社農園で「パナマゲイシャ(ゲイシャは原産地の地名)」という品種を栽培していて、この豆がおいしいと評判だそうです。

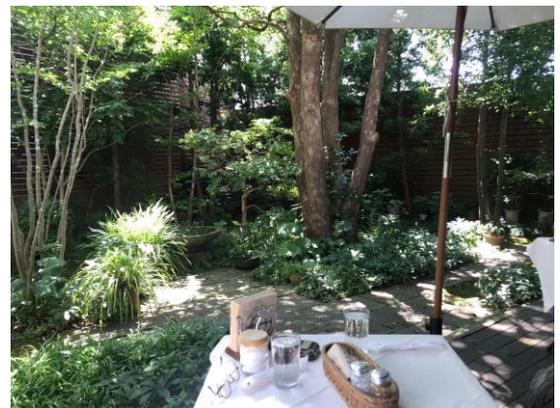
パナマゲイシャと深煎りのコーヒーを注文。パナマゲイシャには飲み比べ用のコーヒーがおまけでついてきます。やはり多くのお客さんが、飲み比べ

手前がパナマゲイシャです。

をしているようです。

さて、3種類のコーヒーを飲み比べてみた結果はというと、「違うことは分かる」というレベルでした。別々に出されれば、どれを飲んでもおいしいと感じるはずです(コーヒー屋さんですから当然ですが)。

違いの分かる男にはなれませんでした。こだわりがないのも気楽でいいものです。



テラス席は非常に快適でした。



掲載用に、色がきれいな面を揃えました。

春先に畑のお隣さんから、カボチャの苗を四ついただきました。適当なところに植えて、特に管理もせず育つに任せましたのですが、立派なカボチャがたくさん収穫できました。(まだ収穫途中)
もしかすると摘芯(余分な枝を除去)や、人工授粉をすればもっと収穫量が増えたかもしれないですが、これで十分です。やはり日当りが良いと、植物も本来の能力を発揮できるようです。

我が家の畑

10月は「脳卒中月間」です
従業員が発症した場合の支援について
考えてみませんか？

「脳卒中」とは、脳の血管に障害が起きること
で生じる疾患の総称であり、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などが含まれます。治療や経過観察などで通院している患者数は118万人、うち約14% (17万人)が就労世代(20～64歳)であると推計されており、特に脳出血は、30代・40代の方が発症する例もめずらしくありません。つまり、ある日突然、従業員が脳卒中を発症することも考えられるところなのです。

10月は、日本脳卒中協会が知識と理解を高めるために定めた「脳卒中月間」であり、啓発のためのさまざまなイベント等が行われます。この機会に、従業員が脳卒中を発症した場合の就労継続等支援について考えてみてはいかがでしょうか。



脳卒中というと、「手足の麻痺や言語障害
など大きな障害が残り、もう働くことはできな

い」……そんなイメージを持っている方も多
いのではないのでしょうか。実際、脳卒中罹患
労働者の復職率は30～50%程度といわれ
ています。

しかし実は、就労世代などの若い患者に
おいては、適切な治療・リハビリテーションに
より、約7割がほぼ介助を必要としない状態
まで回復するとされています。また、残念な
がらそこまでの回復に至らなかった場合でも
たとえば通勤や労働時間・業務内容等、障
害に応じた配慮があれば、職場復帰・就労
継続は十分に可能です。職場の理解と受入
れ体制の整備により、脳卒中を発症したとし
ても多くのケースにおいて、働き続けることが
できるといえます。

脳卒中では、症状が安定した後でも、再発
予防のために継続した服薬・通院が欠かせ
ません。残存する障害によっては、就業上の
措置を講じる必要もあります。これらを踏まえ
て必要な支援を行うためには、病状等の情
報を事業所と脳卒中罹患労働者が共有する
ことが大切です。情報提供と共有の方法等
について規定を整備するとともに、職場の理
解を醸成するための取組みを行って、支援
のための体制を構築しておきましょう。